

平成25年度 愛知県国民保護共同実動訓練の概要

訓練の概要

(1) 目的

国民保護法に基づき、国、地方公共団体、その他関係機関が一体となった共同の実動訓練を実施し、関係機関の機能確認及び関係機関相互の連携強化を図るとともに、国民の保護のための措置に対する国民の理解の促進を図る。

(2) 実施日時

平成26年1月28日(火) 13:30 ~ 16:25

(3) 想定

名古屋市瑞穂公園野球場スタンドにおいて、化学剤(サリン)が散布され、多数の死傷者が発生する。その後、野球場スタンド内に爆発物が発見される。

(4) 主な訓練実施場所

ア 名古屋市瑞穂公園野球場周辺



イ 名古屋第二赤十字病院



ウ 社会保険中京病院



エ 名古屋市昭和スポーツセンター



オ 愛知県庁（愛知県自治センター）



図 主な訓練実施場所の配置



(5) 各訓練実施場所における訓練項目

ア 名古屋市瑞穂公園

(ア) 初動対処訓練

- ・ゾーニング
- ・被災者の避難誘導、救出・救助

(イ) 除染・応急救護訓練

- ・除染前トリアージ
- ・除染処置(乾式・湿式除染)
- ・搬送トリアージ(生理学的、解剖学的トリアージ)
- ・救護処置

(ウ) 被災者搬送訓練

- ・救急搬送
- ・バス搬送

(エ) 現地調整所運営訓練

イ 医療機関(名古屋第二赤十字病院・社会保険中京病院)

(ア) 被災者受入訓練

- ・被災者(化学剤曝露者)の受入準備
- ・被災者(化学剤曝露者)の収容

(イ) 医療救護訓練

ウ 名古屋市昭和スポーツセンター

救援訓練(避難所運営訓練)

- ・安否情報収集
- ・メンタルヘルスへの配慮

エ 愛知県庁

(ア) 緊急対処事態対策本部員会議運営訓練

(イ) 合同対策協議会運営訓練

(6) 参加機関等

内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省、国土交通省、防衛省、中部管
区警察局、名古屋地方気象台

愛知県、愛知県警察

名古屋市、名古屋市消防局、瀬戸市消防本部、東海市消防本部、大府市消防本部、
豊明市消防本部、尾三消防本部

陸上自衛隊（中部方面隊第10師団）、自衛隊愛知地方協力本部

日本赤十字社愛知県支部

名古屋第二赤十字病院、社会保険中京病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋掖济
会病院、藤田保健衛生大学病院、愛知医科大学病院、総合大雄会病院、愛知県厚
生農業協同組合連合会安城更生病院、愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病
院、豊橋市民病院、愛知県医師会、名古屋市医師会

公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会

名鉄バス株式会社

名古屋医専、東海医療工学専門学校

(37機関・参加人員約500人)

課 題

発災場所（瑞穂公園野球場）

- 1 ゾーニングの表示
- 2 ウォームゾーン・コールドゾーン間の進入退出統制
- 3 除染前トリアージ
 - ・ 待機中の軽症者への対応
 - ・ 軽症者に対する除染前トリアージ
- 4 救護活動寺の基本装備の統一

避難所（昭和スポーツセンター）

- 1 被災者への情報発信

化学テロ想定合同訓練

1/21(日)朝
名古屋で国や県
化学剤を使用した大



サリン散布を想定し被災者を搬送する救助隊＝名古屋市瑞穂区の瑞穂公園で

規模テロを想定し、国や県は二十八日、名古屋市瑞穂区の瑞穂公園

などで共同訓練を実施した。

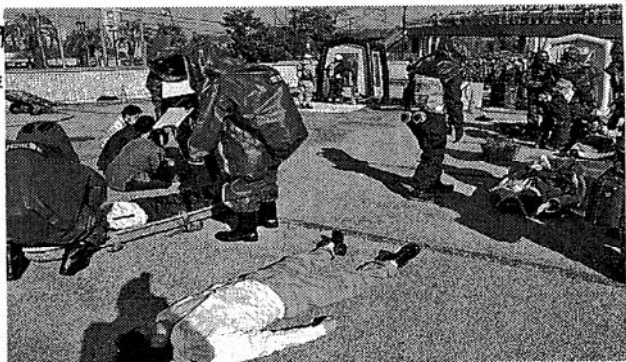
国民保護法に基づく訓練で、県警や消防、自衛隊をはじめ、国や医療機関などから五百人が参加した。県内の実施は初めて。

野球場の内野スタンドで猛毒のサリンが散布された想定。警察官や消防署員らが次々と駆け付けて除染作業などを実施し、医療スタッフは症状の程度ごとに患者を選別するト

リアージ、救護処置などに当たった。

瑞穂公園以外でも名古屋第二赤十字病院（名古屋市昭和区）や社会保険中京病院（同市南区）などで訓練があり、被災者の受け入れや避難所の開設など連携体制を確認した。

訓練の状況を見守った大村秀章知事は「関係機関の連携を密にして安心安全を守ってほしい」と話した。
(多園尚樹)



500人が参加した。

◎：イベント開催中の名古屋市瑞穂公園野球場で異臭が発生したと設定。化学防護服姿の消防隊員らが観客の約230人を安全区域に誘導し、被害者を専用テント内で除染した。自衛隊員は噴霧器で除染作業を展開。



◎：愛知県なごりストが化が処理した。

学物質サリンをまいたと想定し、国民保護法に基づく訓練を実施した。写真、自衛隊や県警、消防、医療機関など37機関計約「参加者アンケートで、各機関連携への課題を洗い出した」と話した。

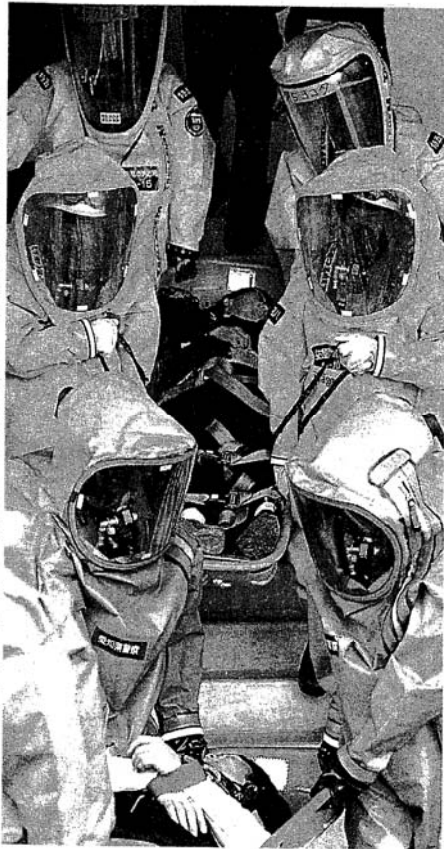
テロ想定した
共同実動訓練

1/26毎日朝刊
27面 瑞穂

国民保護法に基づき、テロを想定した「国民保護共同実動訓練」（主催・愛知県、名古屋（市））が28日、名古屋

市瑞穂区の瑞穂公園を主会場に実施された。東海3県では初の訓練で、県市のほか、警察庁、陸上自衛隊、民間医療機関など37機関約500人が参加した。瑞穂公園野球場のスタンドにテロリストが

化学剤（サリン）を散布し死傷者が発生した—との想定。同公園には県警や災害派遣医療チーム（DMAT）などが出動し、除染作業や、負傷程度を判定するトリアージなどの訓練をした。【高橋昌紀】



訓練で、化学剤が散布された野球場から重傷者を救出する防護服の警察官や消防隊員ら―名古屋市瑞穂区で28日、兵藤公治撮影



テロを想定して行われた国民保護実動訓練—稲垣政則撮影

サリンテロ想定初訓練

1/24読売(朝)

県と市 洗浄や処理手順確認

県と名古屋市は28日、国と共同でサリンによるテロを想定した国民保護法に基づき、37機関約500人が参加した。

イベント開催中の名古屋市瑞穂区の瑞穂公園野球場

スタンドで、サリンが散布され、多数の死傷者が発生し、爆発物も発見されたと想定。消防がサリンが散布された付近にいた人が人に対して、サリンの付着状況によって除染の順番と方法を決め、応急処置をしながら、服を脱がしたり、洗浄したりする訓練を行った。また、スタンドでは県警機動隊が消防と共に、不審物を探し出し、簡易検知器でサリンと特定するまでや爆発物をX線分析をして処理するまでの手順を確認した。県庁では関係機関による「緊急対処事態対策本部」が設置され、「合同対策協議会」を開き、対応方針や課題を協議した。